

令和4年度第2回太宰府市総合戦略推進委員会会議録
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和4年7月25日(月)
午後1時00分開会
午後2時22分閉会
- 2 場 所 太宰府市役所3階 庁議室

2 委員出席者

| | |
|-------|---------|
| 委員 長 | 八 尋 茂 雄 |
| 副委員 長 | 八 尋 和 郎 |
| 顧 問 | 福 留 大 士 |
| 委 員 | 大 西 良 |
| 委 員 | 松 澤 尚 史 |
| 委 員 | 柳 瀬 隆 志 |
| 委 員 | 青 山 博 秋 |
| 委 員 | 日下部 寛 行 |
| 委 員 | 施 光 恒 |
| 委 員 | 杉 春 華 |

3 執行部

市 長 部 局：楠田市長・原口副市長・山浦総務部長・中島市民生活部長
高原都市整備部長・友添観光経済部長・堀教育部理事
村田総務部経営企画担当理事・轟経営企画課長

4 議題

- (1) 総合戦略KPI・Output進捗状況について
(2) まちづくりビジョン会議グループの進捗状況について

5 概要

議題（１）総合戦略K P I ・ O u t p u t 進捗状況について

<事務局説明>

- ◆ 4つの基本目標と31の施策から構成されている総合戦略には、基本的に成果指標となるK P I と活動指標であるO u t p u t 指標を設定している。
- ◆ 昨年度の総合戦略K P I ・ O u t p u t 進捗状況について、現時点で把握している主だったものを中心に説明。

<委員意見・提案>

- ◆ 市民意識調査のスコアをK P I として採用しているものに関しては、少々注意が必要だと思う。K P I の設定というのはどうしても政策や施策によって評価しやすいもの、しにくいものがあるかと思うが、できるだけアクションに対して因果関係の強いものを指標として採用することをお勧めする。

議題（２）まちづくりビジョン会議グループの進捗状況について

①行財政改革

<職員グループリーダー説明>

- ◆ ふるさと納税、指定管理者制度、コミュニティバスまほろば号についての相談シートを委員グループに提示。まずは指定管理者制度とまほろば号を重点的に検討する。
- ◆ ふるさと納税については、年間目標の10億円まで昨年度あと1億円程度というところまで来ており、この目標を達成するためにどのような取組を行っていくべきかを課題としている。
- ◆ まほろば号については、運賃を一律100円で運航しており、毎年度約1億5,000万円の運行経費を負担している。運賃をどうするか、今後も現在の路線、便数を維持していくのかなどを課題としている。
- ◆ 指定管理者制度については、今回更新を迎える11施設の選定にあたって基本的に公募とすることで業者間の競争による効果だけではなく、従前の業務の検証がなされ、当該事業の妥当性や業務の改善につながることを期待されるのご提言をいただいた。

<当該グループ委員補足>

- ◆ 行財政改革は多岐にわたっており、今回指定管理者とまほろば号の二つを選択したような形になっているが、全体の行財政改革の問題点を洗い出した上で、この二つが本当に妥当かということも含めて検討していきたい。
- ◆ 指定管理者制度については、14施設中11施設が随意契約になっているが、本当に指定管理者でよかったのかどうかも含めて検討する必要があると考えており、そういう意味では今の指定管理者事業にも公募をかけることを原則にしておき、その上で自分たちがその間行ってきた事業がどうだったのかという振り返りを事業者にもしていただいた上で選定していくことが筋ではないかと思う。

<市長補足>

- ◆ 行財政改革の幅が非常に広いため、もう一度副市長、当該リーダーと行財政改革全般の論点整理みたいなものも近々やっていくべきだと考えている。

②新しい公共

<職員グループリーダー説明>

- ◆ 自治会施設への支援、生活支援体制整備、福祉関連の総合窓口の設置について相談シートを委員グループに提示。
- ◆ 生活支援体制整備については、協議体それぞれの役割、組織、活動内容等についてご質問いただき、参考資料の提供を行った。
- ◆ 福祉関連の総合窓口の設置については、福祉申請手続における国の申請手続電子システム標準化に対する市の考え方と対応方針、福祉申請手続の申請件数と内容、福祉相談の手段別の件数と内容についてご質問いただき、参考資料の提供を行った。

<当該グループ委員補足>

- ◆ 相談シートに基づいて様々な提案をしているが、やはり現状の的確な把握が最重要だと考えている。現状の認識、それから課題に向けた取組、詳細について一度話し合いの場を設けるように進めている。
- ◆ 今後は相談シートだけではなくて、委員側からの提案についても論点を整理して議論を深めていくことにしている。

<市長補足>

- ◆ 新しい公共というワード自体が市民権を得られておらず、定義づけもまだまだ不確定である。大まかに言うと行政すべきこと、市民にお任せしたいこと、そして行政と市民で協働していくべきこと、そういうことの分担、区切りを財政的な裏づけなども含めながら、最終的によりよい市政運営、市民の方々の生活につなげていきたいというのが本当の趣旨。そういう意味では窓口や様々な施設のことだけに限らず、市民のあらゆる生活ニーズに関わる全てのことだと思っているので、少々時間はかかるかもしれないが、全体を見据えつつ議論いただければ大変ありがたい。

③ニュー太宰府構想

<職員グループリーダー説明>

- ◆ 中心市街地の活性化、全世代交流拠点の創設について相談シートを委員グループに提示。
- ◆ 中心市街地の活性化については、太宰府市を従来の歴史や文化や自然のまちだけにとどまらず、さらなる人口増加や企業進出、交通利便性の向上などを目指せるまちに脱皮させるためにも、西鉄五条駅周辺をはじめとした市内の各拠点における在り方について調査等を行い、活性化に向けた検討を進めることを目的としている。
- ◆ 全世代交流拠点の創設については、未来を担う子どもや学生、高齢者、障害者など全世代の市民がつながりを持ち、お互いに尊重し合い、自分も尊重されながら、自らの思い描く将来像に向かって生活できるような交流の場をつくることを目的としている。
- ◆ 議論のための判断材料としてのデータ、それから論点整理の必要性、国庫補助事業を活用した調査や市の所有地の賃貸、公共施設の集約や大学等との連携などの御提言をいただいた。また、課題として、容積率や高さ制限緩和の必要性検証、渋滞問題、駅へのアクセス、財源問題等の御指摘もいただいた。

<市長補足>

- ◆ いつまでに結論を出すかというところが非常に重要になってくると思う。その辺りを一度副市長、リーダーと議論しなければいけないと思っている。

④世界に羽ばたく人材育成

<職員グループリーダー説明>

- ◆ 太宰府市美術展（仮）、高大連携の推進、子ども家庭総合拠点についての相談シートを委員グループに提示。
- ◆ 太宰府市美術展については、他市の開催事例を参考にすれば基本スキームをつくれるのではないかと、そこに太宰府市らしさを加味すればよいというご意見。また、新規事業なので、最初から完璧なものを求めるのではなく、試行錯誤しながら修正していくことでよいと考えるとのことのご意見をいただいた。
- ◆ 高大連携の推進については、市内大学で構成されるキャンパスネットワーク会議に本年度から市内の4高校にオブザーバーで参加していただいております、そこを主体として事業推進をしていけばいいのではないかとのご意見をいただいた。
- ◆ 子ども家庭総合拠点については、子どもの健全な育成は親のありようと直結する問題でもあるので、既に整理している課題を愚直に進めていくしかないとのことのご意見をいただきました。

<市長補足>

- ◆ もう一度副市長、担当、リーダーなどと相談しつつ、この三つのシートにかかわらず世界に羽ばたく人材育成のためにできることがあるのか、美術展も市制40周年の一環として行いたいと思っているので、40周年全体の中で世界に羽ばたく人材育成に何かつなげられないかなど、もう少しより具体的に、優先順位をつけてメンバーの方とすり合わせをしなければならないと考えている。

⑤企業誘致、起業創業支援

<職員グループリーダー説明>

- ◆ 企業誘致プロジェクト、回遊ルートの整備・滞在型観光の促進、令和発祥の都太宰府『梅』プロジェクト推進事業についての相談シートを委員グループに提示。
- ◆ 企業誘致プロジェクトについては、令和3年度は市役所内でプロジェクトを組み、具体的な進出企業の模索、企業誘致に関する基盤整備の検討を図っている。
- ◆ 回遊ルートの整備・滞在型観光の促進については、観光推進基本計画の中でも課題として掲げており、観光ルートや体験メニュー等を思案しているが、コロナ禍の状況でうまく検証できていない状況。
- ◆ 令和発祥の都太宰府『梅』プロジェクト推進事業については、昨年度は市内の史跡地を中心とした梅を活用し、福岡農業高校と連携し、梅の新たな可能性を見いだした年となった。今後、さらなる既存商品の磨き上げや新しい梅製品の開発、梅の植栽の拡大を行い、継続して梅プロジェクトの推進を図っていきたい。

<当該グループ委員補足>

- ◆ 企業誘致という部分で必ず問題に上がってくるのが埋蔵文化財の発掘調査。事業者の場合、費用負担が非常に大きな課題にもなっている。雇用と産業を生むという観点

あればこのような形で支援するなど、アイデアをどんどん積極的に出していきたい。

<市長補足>

- ◆ 梅プロジェクトについては、かなり軌道に乗ってきているので、今後様々な民間の支援もさらに借りていかなければいけないと思っている。
- ◆ 滞在型観光については、天満宮周辺に既に多くの方が来ていただいているので、そのような方々により長く滞在をしていただきお金を落としていただけるようなシステムづくりをどうするかを、ここのチームももちろんだが、様々なコンサルティング会社や福岡県など、そのようなところの協力も得ながら、広くいろいろな方々から意見を募りながら進めていただきたいと考えている。
- ◆ 企業誘致については、税収をしっかりと確保していくことが本市にとって非常に重要な論点である。そのためにやはりプロの目から進出したいと思えるようなまちにするため、早急に条件整備をしていかなければいけないと考えている。その点について、特に時間軸を短くして、具体的な提案をいただきたいと思っている。

■全体を通して補足・意見

<市長補足>

- ◆ 公約の中での優先順位や時間軸をもっと皆さんに最初にお伝えしておくべきだったと思っており、今後グループごとにそのような作業をしていきたいと思っている。
- ◆ 相談シートに限らず、自分がしたいことや、市がすべきだということも、これからでもどんどん出していきたいと思っている。その中でできること、できないこと、優先順位がどうなのか、財源的にどうなのかという話も皆さんと率直にお話をしていきたいと思っている。
- ◆ 上記の点についてまた、副市長、各グループリーダー、担当含めてすり合わせを行い、皆さんからご意見をいただけるような形にしていきたい。

<委員意見・提案>

- ◆ 太宰府市の中で空き家がどれくらいあって、その中で市が相談途中のところと、活用していいよというところをもし把握しているのであれば、教えていただければ空き家を探している人が助かると思う。

⇒ 空き家の調査を以前行った際に、空き家を活用したいかや、今後どうしたいかというご意向をお聞きしたが、思い出の建物を整理するのに手間暇もかかるので取りあえず置いておくといった、市場への流通まで行かないケースがたくさんあるのが実態。そのような思いもある中で、やはり次の方へのバトンタッチの背中を押すようなことが必要ではないかというのは自治体として感じている。

進捗状況の情報提供については、宅建協会などと連携協定を結んでおり、宅建協会などへの情報提供で対応をお願いしている状況。詳細な1軒1軒ごとの見込みがありそうかどうかというところまでは提供できていないところがあるので、できるだけ私たちも足を運んで対応していきたいと思っている。

- ◆ 世界に羽ばたく人材育成の子ども家庭総合拠点に関してはヤングケアラーの問題であったり、子どもの虐待の問題であったり、女性や子どもの貧困の問題であったり、様々な課題がこの太宰府でもある。国としても子ども家庭庁の動きもあり、新たな省

庁ができたことよっての新規の事業なども計画されていると聞いている。できれば、そのような国の事業をこの太宰府に引っ張ってくるようなことも検討していかないといけないと思っている。こども家庭庁もできたので、子ども家庭総合拠点という視点では太宰府がこの地域で先進を行くような形にしていく必要があるとも思っている。

⇒ 世界に羽ばたく人材育成という言葉も難しいが、決して差別化を図ろうということではなく、伸びていく子どもたちもいれば、逆にセーフティネットがないと伸びようにも伸びれないという子どもたちもいるため、言葉にこだわらず両面整えていかなければいけないと思っている。そういう点をむしろどんどん補って言っていただくほうがありがたい。